

# 生徒の深い学びの実現を通して、選択・判断する力を育成する中学校社会科学習指導の工夫 — 「問いかけシート」を活用して合意形成過程を充実させる学習活動を通して —

三次市立塩町中学校 三田 直子

## 研究の要約

本研究は、合意形成過程を充実させる学習活動を通して、社会に見られる課題の解決に向けて選択・判断する力を育成する中学校社会科学習指導の工夫について考察したものである。文献研究から「選択・判断する力」を「社会に見られる課題の解決に向けて、論拠に基づいて、事実に基づく判断、価値的判断を学習過程で繰り返しながら、より望ましい解決策を、選択・決定することができる力」とした。この力を育成するために、探究的な学習の過程を意識して単元を構想し、社会的な見方・考え方を取り入れた「問いかけシート」を用いて合意形成過程を充実させる学習活動を設定し検証授業を行った。その結果、自分の考えを形成するために、情報や他者の意見などを取捨選択し、グループや個人の考えを再構築しながらまとめることができ、よりよい解決策は何かと判断する場面や記述が見られた。このことから、「問いかけシート」を活用して合意形成過程を充実させる学習活動は、生徒の深い学びを実現し、選択・判断する力の育成に有効であることが分かった。

## I 主題設定の理由

「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について（答申）」（平成28年，以下「28年答申」とする。）には、「自分の判断や行動がよりよい社会づくりにつながるという意識が持っているかどうかという点では、肯定的な回答が国際的に見て相対的に低い<sup>1)</sup>と示されている。

また、中学校学習指導要領（平成29年告示）解説社会編（平成30年，以下「29年解説」とする。）には、学校教育に求められることとして「子供たちが様々な変化に積極的に向き合い、他者と協働して課題を解決していくことや、様々な情報を見極め知識の概念的な理解を実現し情報を再構成するなどして新たな価値につなげていくこと、複雑な状況変化の中で目的を再構築することができるようにすること<sup>2)</sup>が示されている。

所属校の実態について、表1は、令和3年度末に全校生徒を対象に実施した「生活と学習に関する調査」の探究のプロセスに関する結果を示したものである。授業時間内に取り組む内容や意欲についての項目は70%以上の肯定的評価があったことに対して、「授業では、課題を解決するために進んで、資料を集めたり取材をしたりしています。」の質問は47.8%と肯定的評価が低く、質の高い学びになっていないと考えた。この背景として、これまで、進んで情報の収集をしたいと生徒に意欲を持たせるような課題や学習活動の設定が不十分なことと、生徒が個人で目的に合った情報の収集に難しさを感じていることにあるのではないかと考えた。

表1 令和3年度末「生活と学習に関する調査」の探究のプロセスに関する結果の一部抜粋

過程	質問項目	肯定的評価
課題設定	授業では、解決しようとする課題について、「なぜだろう」、「やってみよう」と思っています。	71.3%
情報の収集	授業では、課題を解決するために進んで、資料を集めたり取材をしたりしています。	47.8%
整理・分析	授業では、調べたことなどを、図、グラフ、表などにまとめています。	70.0%
	授業では、情報を、比べたり（比較）、仲間分けしたり（分類）、関係を見付けたり（関係付け）して、何が分かるのかを考えています。	73.5%
まとめ・創造・表現	授業では、自分の考えとその理由を明らかにして、相手にわかりやすく伝えるように発表を工夫しています。	70.8%

また、「今、求められる力を高める総合的な学習の時間の展開 未来社会を切り拓く確かな資質・能力の育成に向けた探究的な学習の充実とカリキュラム・マネジメントの実現（中学校編）」（令和4年，以下「4年総合」とする。）には、探究的な学習の更なる充実に向けて、「同じ課題を追究する学習活動を行っていても、収集する情報は協働的な学習の方が多様であり、その量も多い。情報の多様さと多さは、その後の整理や分析を質的に高めるために欠くことのできない重要な要件である<sup>3)</sup>と示されている。これらのことから、情報の収集を充実させることで、質の高い探究的な学びを実現すべきだと考えた。なお、本研究でいう情報とは、「4年総合」が示している「判断や意思決定、行動を左右する全ての事柄<sup>4)</sup>とする<sup>(1)</sup>。

そこで、本研究では、探究的な学習の過程を意識した単元計画を立てることとした。まず、情報を収集する時間を十分確保する。その際、インターネットや書籍などから多様な情報を得る中で、目的に合った情報は何かという視点を基に、情報を取捨選択したり、判断したりしながら学習を進める。そして、その後の議論が質の高い学びになることを目指す。また、協働的な学びの視点から、他者と共に課題を発見し、必要な情報を収集・分析しながら、多様な立場や意見を踏まえて合意形成を目指す学習活動を設定する。これは本校の教育研究推進で、「深い学び」を実現する授業の手立てとして、「展開時に合意形成の場面を設定し一問一答で終わるのではなく、追加質問を行わせ、クリティカルに思考し、生徒自らが思考の変化を実感する方策を研究する」ことを掲げていることによるものである。

以上を踏まえ、生徒がお互いに質問し合い、活発に議論できるよう質問の視点を提示した「問いかけシート」を活用し、合意形成過程を充実させる中で、授業への参加意欲の向上や生徒が情報を取捨選択しながら、選択・判断する力を育成したいと考え、本研究の主題を設定した。

## II 研究の基本的な考え方

### 1 中学校社会科における選択・判断する力とは

#### (1) 選択・判断する力とは

「28年答申」には、判断の具体について、「必要な情報を選択し、解決の方向性や方法を比較・選択し、結論を決定していくために必要な判断や意思決定」<sup>5)</sup>と示されている。

「29年解説」には、社会科で育成する資質・能力の「思考力、判断力、表現力等」について、「社会的事象の意味や意義、特色や相互の関連を多面的・多角的に考察したり、社会に見られる課題の解決に向けて選択・判断したりする力、思考・判断したことを説明したり、それらを基に議論したりする力」<sup>6)</sup>と示されている<sup>(2)</sup>。

表2 社会的判断の類型(小原(1988)を基に稿者作成)

判断の類型		判断の形式
事 実 的 判 断	記述的 判断	社会的事象に対して、「どのように」「どのような」と問い、事象の過程、構造、特色などを記述するために行う判断
	説明的 判断	社会的事象に対して、「なぜ」と問い、事象を目的論的、条件的、因果的に説明するために行う判断
価値的 判断		「善い、悪い」「すべきである、すべきでない」「望ましい、望ましくない」というように、社会的事象を価値づけたり、評価したりするために行う判断
実践的 判断 (意思決定)		社会的事象に含まれる問題場面において、「何をなすべきか」「どの解決策がより望ましいか」と問い、事実的判断と価値的判断に基づいて、目的を実現するための最も合理的な手段を選択・決定するために行う判断

また、選択・判断する力について、小原友行(1988)が授業の活動で見られる社会的判断について分類した<sup>(3)</sup>。(表2)

梅津正美(2018)は、「社会科教育で育成を目指す社会的判断力とは、社会問題の解決に対して、論拠・基準に基づいて価値的・実践的判断を下すことのできる能力」<sup>7)</sup>としている。

そして、社会に見られる課題の解決策を選択・決定するまでの過程において、論拠となる情報の選択や事実・価値の判断が繰り返し行われると考える。

以上を踏まえ、本研究における選択・判断する力とは、社会に見られる課題の解決に向けて、論拠に基づいて、事実的判断、価値的判断を学習過程で繰り返しながら、より望ましい解決策を、選択・決定することができる力とする。なお、本研究における「論拠」とは情報とし、それは、前述のように判断や意思決定、行動を左右する全ての事柄とする。

#### (2) 選択・判断する力を育成する学習過程とは

「29年解説」には、言語活動について、「社会的事象の意味や意義、事象の特色や事象間の関連、社会に見られる課題などについて、考察したことや選択・判断したことを論理的に説明したり、立場や根拠を明確にして議論したりするなどの言語活動に関わる学習を一層重視すること」<sup>8)</sup>が示されている。

岩田一彦(1994)は、価値判断ができ、合理的意思決定能力を育成するための授業について、価値選択の場面で、合理的意思決定をするためには、「個人的感情による好き嫌いではなく、科学的根拠および具体的資料による価値判断の重要性が実感できれば、自ら学んでいく状況になっていくことができる」<sup>9)</sup>とし、個人の感情ではなく根拠や資料に基づいて判断することの重要性を述べている。

小原(2009)は、「思考力・判断力・表現力」を育成するための主要な学習活動の一つに「自分の考えを論述する」ことを挙げ、活動内容によって、意思決定と社会形成に分類している。そして、意思決定とは、「目的・目標を達成するために考えられる手段・方法の中から最も合理的なものを選択・決定する活動」であると示している<sup>(4)</sup>。

梅津(2018)は、社会的判断力を育成する学習方法について、「中核を為すのは『議論』である」<sup>10)</sup>とし、その一つに「合理的意思決定過程」を挙げている。これは、「社会問題が生まれる要因となる社会構造やメカニズムを科学的に分析・説明し、その理解に基づいて問題の解決策を合理的に選択・決定する」<sup>11)</sup>学習であると示している。

この三者は、いずれも社会的判断力を育成する学習過程に「合理的意思決定」を取り入れていることが分かる。

以上を踏まえ、本研究における選択・判断する力を育成する学習過程とは、社会に見られる課題につ

いて、個人で合理的意思決定をする場面や合意形成を目指す活動の中で、よりよい解決策を科学的根拠や具体的資料に基づいて選択・判断する場面を取り入れたものとする。また、その過程で、他者と協働して情報を収集したり、多面的・多角的に考察したり、議論・意思決定をしたりしながら自分の考えを構築していくものとする。

## 2 生徒の深い学びの実現を通してとは

「28年答申」には、「深い学び」とは、「習得・活用・探究という学びの過程の中で、各教科等の特質に応じた『見方・考え方』を働かせながら、知識を相互に関連付けてより深く理解したり、情報を精査して考えを形成したり、問題を見いだして解決策を考えたり、思いや考えを基に創造したりすることに向かう」<sup>12)</sup>学習であると示されている。

「29年解説」で、「深い学び」の実現には、「『社会的な見方・考え方』を用いた考察、構想や、説明、議論等の学習活動が組み込まれた、課題を追究したり解決したりする活動が不可欠である。具体的には、教科・科目及び分野の特質に根ざした追究の視点と、それを生かした課題（問い）の設定、諸資料等を基にした多面的・多角的な考察、社会に見られる課題の解決に向けた広い視野からの構想（選択・判断）、論理的な説明、合意形成や社会参画を視野に入れながらの議論など」<sup>13)</sup>を取り入れた学習を設計することが必要であると示している。

田村学（2018）は、「『深い学び』とは、『知識・技能』が関連付いて構造化されたり身体化されたりして高度化し、駆動する状態に向かうこと」<sup>14)</sup>とし、4つのタイプに分けて提示している。その中の、「知識が目的や価値、手応えとつながるタイプ」の事例で、単元が探究のプロセスになっていることが「深い学び」を実現する要因の一つであると示している<sup>15)</sup>。

以上を踏まえ、本研究における生徒の「深い学び」の実現とは、単元構成を探究的な学習の過程に基づきながら設計し、社会と関わり、多様な価値や考えを取り入れながら、社会に見られる課題の解決に向けて、思考・判断・表現させる場面、特に合意形成を視野に入れて議論する活動を充実させることによって目指すものとする。

## 3 生徒の深い学びの実現を通して、選択・判断する力を育成する学習指導の工夫

### (1) 合意形成過程とは

「28年答申」には、思考・判断・表現の過程の一つに、「精査した情報を基に自分の考えを形成し、文章や発話によって表現したり、目的や場面、状況等に応じて互いの考えを適切に伝え合い、多様な考

えを理解したり、集団としての考えを形成したりしていく過程」<sup>15)</sup>が示されている。

桑原敏典（2001）は、「合意形成を目指す社会科は、教室に社会的な合意形成過程を持ち込み、その過程を子どもに追体験させるものであるとも言える。授業構成は合意形成過程に準じて設定され、その過程を民主的に整備すればするほど、子どもはより民主的な過程を体験し、社会的決定の際に公共性に訴えてより民主的な判断をする態度を身に付けることができる」<sup>16)</sup>と述べている。

乾正学（2015）は、「合意形成のポイントは、『自己の意見発表』と『メンバー同士の理念・価値観』の共有、『納得型合意案の作成』である」<sup>17)</sup>と示している。

以上を踏まえ、本研究における合意形成過程とは、自己の価値観や多様な考え・価値観を尊重しながら、対話や議論を通じて、集団としての考え（納得型合意案）を形成する過程を通して、自分の考えを再構築する学習活動とする。

### (2) 合意形成過程を充実させる学習活動の具体 ア 探究的な学習の過程を踏まえた単元計画について

探究的な学習の更なる充実に向けて、「4年総合」では、学習指導のポイントについて、「一つは、『学習過程を探究的にすること』」<sup>18)</sup>、「もう一つは、『他者と協働して主体的に取り組む学習活動にすること』」<sup>19)</sup>が示されている<sup>6)</sup>。

原田（2018）は、社会科の学習論は探究以外にあり得ないとし、「探究としての学習」の学習過程や学習の要件を示している<sup>7)</sup>。また、社会科においては、概念の探究が基本であり、「主題や教材によっては、探究としての学習の上に、よりよい社会形成を意図した価値判断や意思決定を位置づける必要も出てこよう」<sup>20)</sup>と示している。

以上を踏まえ、本研究では、探究的な学習の過程を踏まえた単元計画を構想する。他者と協働しながら、生徒が課題を見だし、課題にあった情報を収集した上で、生徒一人一人が価値判断や意思決定をしながら、よりよい社会形成を目指して現代社会に見られる課題の解決策について合意を目指す学習活動を行うものとする。

### イ 探究的な学習の過程を踏まえた合意形成過程の構想について

次頁の図1は、桑原（2001）を基に、本研究における合意形成過程を示したものである<sup>8)</sup>。まずは、課題についての事実判断を基に価値判断をして、自分なりの解決策を考案する。この時、事実判断は価値判断によって変わることはないと考える。そして、他者と合意できる価値や共有できる価値を模索し、納得解を目指すという過程を進める。ただし、生徒が話し合いの活動中に、価値判断を反省的に吟味

することで価値判断以降の合意形成過程は往復することもあると考える。

また、川端裕介 (2021) は、「解決」の「解」について、「より無駄が少なく、効果が大きい解（最適解）、様々な立場のより多くの人が賛同できる解（合意解）、生徒の意思決定を伴い、その決定に納得できる解（納得解）」<sup>21)</sup>と三つの要素を示している。

このうち本研究では、納得解を目指すこととする。そのため、本単元の最後に個人の納得解を記述させ、今後の公民的分野の学習の中で、現代社会における課題の解決に向けて、折に触れて今回の自分の考えを見直し、形成していくよう促すこととする。

### ウ 「問いかけシート」について

生徒が社会科の学習として、対話や議論を深めるには、社会的な見方・考え方を働かせることが重要である。

「29年解説」には、「社会的な見方・考え方」とは、「課題を追究したり解決したりする活動において、社会的な事象等の意味や意義、特色や相互の関連を考察したり、社会に見られる課題を把握して、その解決に向けて構想したりする際の視点や方法である」<sup>22)</sup>と示されている。また、「公民的分野では『現代社会の見方・考え方』として、『社会的な事象を政治、法、経済などに関わる多様な視点（概念や理論など）に着目して捉え、よりよい社会の構築に向けて、課題解決のための選択・判断に資する概念

や理論などと関連付けて』働かせるもの」<sup>23)</sup>と示されている。

原田 (2018) は、見方・考え方について、「見方は主に事実（現象）を把握するツール、考え方は主に概念（理論）化と価値観形成（意思決定）を促すツールとして機能する」<sup>24)</sup>と示している。また、表3は、原田 (2018) が、先行研究を踏まえて作成した、社会科の目標や資質・能力について、社会的な見方・考え方を生かしたカリキュラムの構造化モデルである。原田は、「目標を構造化することにより、事実から概念へ、さらに価値へと知識の質的な高まりを捉えることが可能になり、深い学びを生むことにもつながってこよう」<sup>25)</sup>とした。

表3 見方・考え方を生かしたカリキュラムの構造化モデル (原田 (2018) <sup>26)</sup>)

学力のレベル		知識	技能	思考・判断 ／表現	情意・態度
見方	知識の獲得 (知っている)	事実	情報 読解	事実的思考・ 事実判断 ／記述	素朴な興味・共感 異なる見 方への関 心
	意味の理解 (わかる)	概念	探究 方法	理論的思考・ 推理 ／説明	文脈や 根拠の 吟味
考え方	活用・創造 (使える)	価値	提案	価値的思考・ 価値判断 ／議論・ 意思決定	自己の 考え方 の構築

探究的な学習の過程	合意形成過程	合意形成過程における生徒の学習活動 具体的な「問い」(★)	具体的な発言と問いかけシートの活用例 (下線部は現代社会の見方・考え方、視点)
1. 課題の発見・提示	課題について事実判断 ↓	課題について、分かることを確認する。 ★「課題に対して分かることは何ですか？」 ★「なぜ、そのような考えが述べられているのですか？」	このグラフから今後も高齢化が進み、世界で最も高齢化が進んでいることが分かる。高齢化に対して社会保障の充実をすることが大切だと述べている。←「問いかけシート」の活用「しかし、社会保障の充実で国債が多いのに、本当に実現できるのかな？」
2. 課題の把握		課題について、それぞれの考えをまとめる。 ★「どのように解決していけばいいと考えますか？」	私は高齢化対策について、【視点A】を取り入れた【取組A】をすればいいと思う。 僕は高齢化対策について、【視点B】を取り入れた【取組B】を行ってほしいと思う。 ←「問いかけシート」の活用「【視点A】は、みんなにとっていいかもしれないが、浸透するまでとても時間がかかりそうだけ…？」
3. 課題の分析	課題について価値判断 ↓ ↑	グループとして、それぞれの考えを「グループとしての考え」にまとめることができるか考える。 ↓ ↑	みんなの意見は、【意見A】と【意見B】と【意見C】だからまとまるかな？
4. 解決策の考案 「納得解」を作成する。	両立方法の有無の検討 ↓ ↑ 合意できる高次の価値の模索 共有できる価値観の模索 ↓ ↑ 合意した価値に基づき、解決策を作成	グループの意見をまとめる。 新しい解決策を模索したり、互いに共有できる点を整理したりする。 ↓ ↑ グループの解決策を作成する。	【取組A】と【取組C】は異なる取り組みだけど、似ているところがあるね。 【意見B】のここを取り入れて、みんなの視点や意見をつなげて考えてみよう。←「問いかけシート」の活用「今、考えた【解決策A】は、今はいいけれど、いずれもっと高齢者が増えたら難しいのではないかな？」
5. 個人思考 自分の考えを形成する。	合意した価値に基づき、解決策を作成 ※考えを構築していく中で、また戻って考えることもある。	グループの話合いも踏まえて、自分の考えを再構築する。	最初は【意見A】と考えていたが、【意見B】や【意見C】の考え方を聞いてなるほどと思った。また【解決策A】はとていいが、将来も続けていけるかどうかと考えた時、高齢者の割合がもっと高くなった時に難しいのではないかと考えた。だから、私は高齢化の解決策は【解決策B】と考える。

図1 研究における合意形成過程の構想 (桑原 (2001) <sup>8)</sup> を参考に稿者作成)

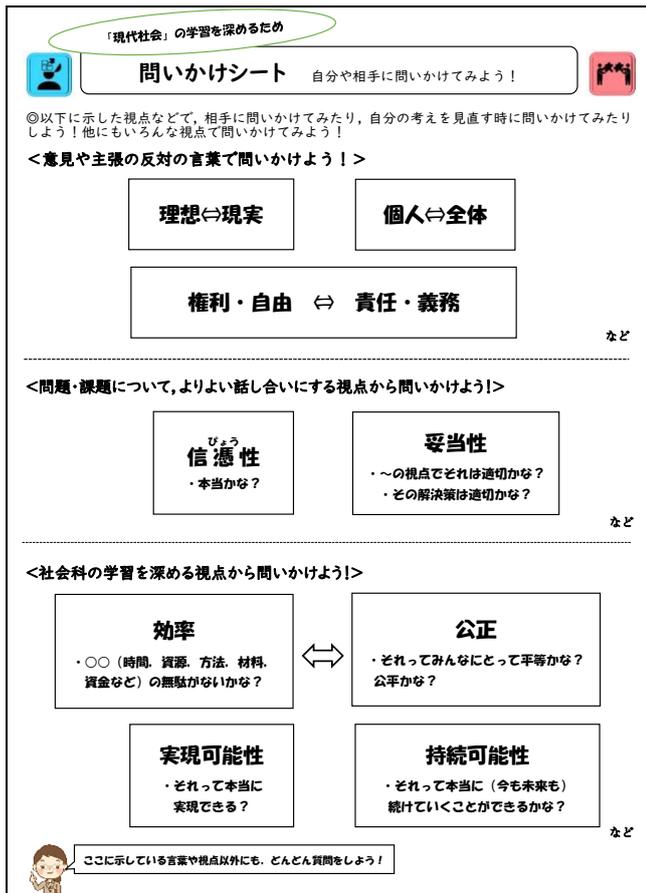


図2 研究における「問いかけシート」の構成

これまで述べてきたように、生徒の深い学びの実現を通して、選択・判断する力を育成する学習指導の工夫として、対話や議論を深め、合意形成過程を充実させていくために、社会的な見方・考え方を踏まえた「問いかけシート」を活用した活動を実践することとする。そこで、本研究では、「28年答申」別添資料3-5に示されている現代社会の見方・考え方の視点を取り入れた「問いかけシート」（図2）を作成した。

この「問いかけシート」は、3段階に分類し、作成した。上段は、相手の意見や主張と反対の言葉で問いかけるための視点の一例を提示した。中段は、問題や課題に対する考えについて、反省的に確かめる問いの視点の一例を提示した。そして、下段は、現代社会の見方・考え方を働かせるための視点の一例を提示した。現代社会の見方・考え方は様々あるが、検証授業を「29年解説」公民的分野内容A 私たちと現代社会を受けて設定したことから、次単元で学習する「対立」と「合意」を先行して取り入れた。また、「実現可能性」は、公民的分野の最初の学習であることから、生徒の解決策が科学的根拠に乏しいものになると予想したため取り入れた。「持続可能性」は、単元の学習内容や単元を貫く問いとの関連から取り入れた。

### Ⅲ 研究の仮説及び検証の視点と方法

#### 1 研究の仮説

「問いかけシート」を活用し、探究的な学習の過程や合意形成過程を充実させれば、生徒の深い学びが実現する過程で、生徒の選択・判断する力を育成することができるであろう。

#### 2 検証の視点と方法

検証の視点と方法について、表4に示す。

表4 検証の視点と方法

	検証の視点	検証の方法
1	探究的な学習の過程や合意形成過程を通して、生徒の選択・判断する力を育成することができたか。	事前・事後アンケート 授業観察 プレテスト・ポストテスト
2	「問いかけシート」は合意形成過程を充実させる手段として有効であったか。	事前・事後アンケート 授業観察 ワークシート 単元の振り返りシート

### Ⅳ 検証授業について

本研究では、「29年解説」公民的分野の内容A 私たちと現代社会（1）私たちが生きる現代社会と文化の特色を受けて、単元「私たちが生きる現代社会—持続可能な社会を実現するためには—」を設定し、検証を行う。

#### 1 授業計画

- 期間 令和4年7月4日～令和4年7月7日
- 対象 所属校第3学年  
(A組27人, B組28人)
- 単元名 私たちが生きる現代社会  
—持続可能な社会を実現するには—
- 目標 現代社会に見られる課題の解決に向けて対話や議論を通して、よりよい解決策を選択・判断し、表現している。
- 単元を貫く問い  
よりよい社会を創るために、現代社会の課題をどのように解決していったらよいだろう。
- 単元計画（全4時間）  
次頁の図3は単元計画、検証授業の学習過程及び生徒の活動の様子をまとめたものである。

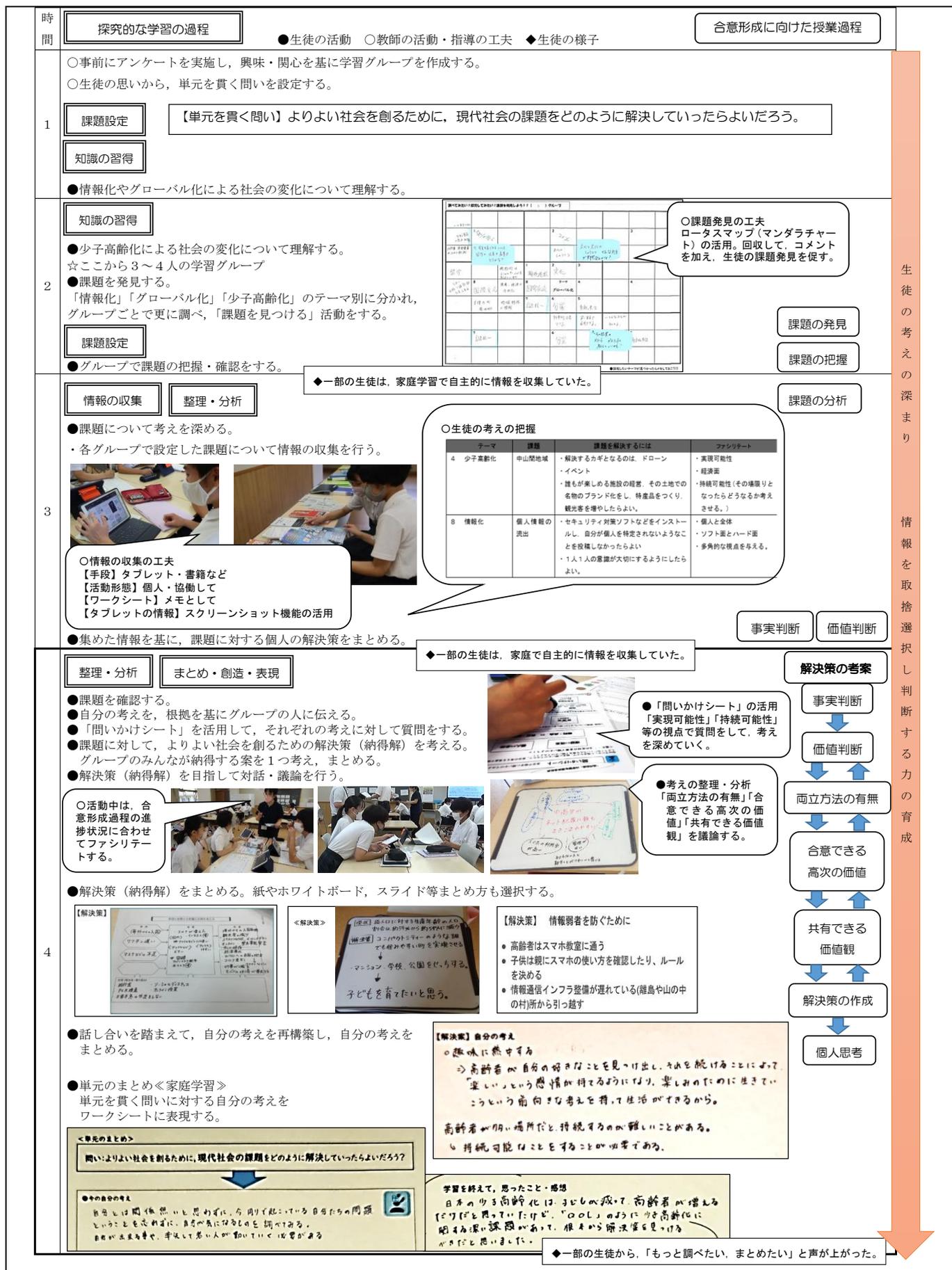


図3 単元計画、検証授業の学習過程及び生徒の活動の様子

## V 検証授業の分析と考察について

### 1 探究的な学習の過程や合意形成過程を通して、生徒の選択・判断する力を育成することができたか

検証授業の前後で行った生徒アンケートで、探究的な学習の過程や合意形成過程を充実させることができたかどうかという視点で、生徒の意識の変容を表5に示す。

表5 アンケート調査の生徒の変容(%)

質問項目	事前・事後	1	2	3	4
①社会に見られる課題を解決するために、授業時間以外にも自分から進んで、資料を集めている。	事前	8.2	38.8	40.8	12.2
	事後	30.6	34.7	30.6	4.1
②話し合いでは、互いの意見のよさを生かして解決方法を考えている。	事前	49.0	36.7	12.2	2.0
	事後	67.3	28.6	4.1	0.0
③話し合いで解決方法を考える活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている。	事前	55.1	34.7	8.2	2.0
	事後	73.5	22.4	4.1	0.0

(1:よくあてはまる 2:あてはまる 3:あまりあてはまらない 4:あてはまらない)

①の質問について、事前アンケートと事後アンケートを比較すると、よくあてはまると答えた生徒の割合が22.4%増え、情報の収集を積極的に行ったことが分かる。次に、②・③の質問について、事前と事後を比較した結果、よくあてはまると答えた生徒の割合が、それぞれ18.3%、18.4%増えた。このことから、合意形成過程を経て、お互いの意見の良さを生かして解決策を考えたり、自分の考えを深めたり広げたりすることができたと感じる生徒が増えたことが分かる。よって、アンケート調査の結果から、探究的な学習の過程や合意形成過程を充実させることができたと考えられる。

また、授業では、ロータスマップを活用して、生徒自身で課題を発見するように工夫した。そうして自分で課題を発見することで、その後の学習活動で自ら進んで調べる生徒の様子が見られた。また、情報収集の方法として、タブレット端末以外に、書籍や新聞など多様な情報源を準備し、調べ方を選択させた。どの情報が目的に合うものなのかという視点で調べる中で、一人で情報を探すよりも他者と協働して探す姿が多く見られた。協働的な学びによって、他者から情報を得たり、複数で情報を判断したりすることで、論拠を増やすことにつながったと考えられる。

次に、合意形成場面におけるグループ1の対話の記録(一部抜粋)を示す。

【課題「個人情報の流出」に対する解決策】

Aさん：なんで、こんなに個人情報が流出しているのかな？

Bさん：①(グラフ中の個人情報流出の要因を見て、)特に、不正アクセスが多いね。国がもっとセキュリティを強化してほしいね。

Cさん：②グラフの個人情報の流出の要因に、誤表示・誤送信・誤操作・紛失・盗難みたいな③個人の過失によるものが書かれているよ。それも含めて考える？

Aさん：その過失は、故意に起こしているものとそうではないものっていう見方もできるよ。

Bさん：それじゃあ、とりあえず④全体から考えてみようか。(グラフや表から)コロナ後に(個人情報の流出件数が増えているよ。(平成30年から令和元年にかけて増えている)約2倍じゃん。

Cさん：⑤不正アクセス件数が多いね。でも、令和2年はちょっと減ったよ。

Aさん：GO TOキャンペーンとか経済も戻り、人の動きが出てきたし、⑥インターネットに関わる「時間が減った」からかな？

Bさん：じゃあ、コロナが落ち着いたら課題は減るかな？

Cさん：いや、コロナは関係ない！それより新しい問題が増えると思うよ。

Bさん：次から次へと新しい問題が出てくるから、今行っているセキュリティ対策は、その場限りで、⑦持続可能な取組かというところ、そうじゃない。

Aさん：やっぱり全体としての解決策は、法律が⑧公正なのか？⑨個人情報に関わる法律を調べてみるね。

#### グループ1の対話の記録(一部抜粋)

下線部①から、課題に対する要因について情報を収集し、その論拠を基に「セキュリティを強化する」という解決策を述べている。下線部②も課題に対する要因について情報を収集している。両者は、「全体」と「個人」という異なる視点で情報を収集しており、視点を意識して合意形成過程が進んでいった。また、下線部③・④から、情報収集で得たグラフを基に説明をしている。下線部⑤から、話し合いで生まれた新たな解決策に対して、価値判断をして、再び情報を収集する行動へとつながった。いずれも収集した情報を論拠にして合意形成を進めていることが分かる。

そして、単元の学習を通して、家庭学習で自主的に調べてきたり、「もっと調べたい、まとめたい」という声が出てきたりして、授業時間外にも学習をしている生徒がいた。探究的な学習の過程を充実させることで、生徒が進んで情報収集するようになり、主体的に学ぶ様子が見られた。

探究的な学習の過程や合意形成過程を通して、生徒の選択・判断する力を育成することができたかの検証として、同じ問題でプレテストとポストテスト(別添資料)を実施して変容を見た。テストは、仮

説の理由を証明するための根拠資料として適切なものを選択肢の中から選ぶものとした。プレテストの正答者数は14人，ポストテストの正答者数は21人（n=49人）であった。正答者数が7人増え，一定の効果はあったといえる。

## 2 「問いかけシート」は，合意形成過程を充実させる手立てとして有効であったか

### (1) 生徒アンケートと合意形成場面に見る「問いかけシート」の有効性について

表6は，「実現可能性」の視点に関する生徒アンケートの結果を表したものである。

表6 アンケート調査の生徒の変容（％）

質問項目	事前・事後	1	2	3	4
	①自分自身でアイデアを考えたとき，実際にできるかどうか，検討している。	事前	38.8	44.9	12.2
	事後	53.1	36.7	10.2	0.0
②みんなで意見を出し合った後に，実際にできるかどうか，検討している。	事前	30.6	49.0	18.4	2.0
	事後	51.0	42.9	6.1	0.0

(1：よくあてはまる 2：あてはまる 3：あまりあてはまらない 4：あてはまらない)

①・②の質問について，事前と事後を比較すると，よくあてはまると答えた生徒の割合がそれぞれ14.3%，20.4%増えた。このことから，「実現可能性」の視点を持って解決策を考えようとする生徒が増えたことが分かる。

次に，合意形成場面におけるグループ2の対話の記録（一部抜粋）を示す。

【課題「ネット依存」に対する解決策】

Aさん：ネットから離れることができないから，この課題がでてきてるんだよね。

Bさん：ネット依存になる前に対応することが必要なのでは？

Cさん：インターネットのない環境にする？

Bさん：そしたら，ネットの利用時間に制限をかけるしかないと思う。

Cさん：でも，それって⑤**実現可能**かな？やりたくって制限解除してしまいそう。

Bさん：自分で解除できないように，会社に，自動的にかけるようなソフトなどをつくってもらったらどうかな。

Aさん：ネット依存，特にスマホを見ている人も時間も多いよね。スマホを触ることに着目するんじゃなくて，スマホじゃないところに楽しみを見つけて，自然とスマホから離れるようにするっていう解決策はどうか？

Bさん：それいいじゃん。

Aさん：この意見でみんないいの？

Bさん：私はいいと思う。制限をかけることばかり考えて，そんな風に考えられなかった。

Cさん：いいと思う。僕の考えは硬くて，（情報社会の）環境のせいにしてきたから。

Aさん：ネット依存を解決するための楽しみって具体的に何だろう？

Cさん：そういえば，実際に，アニメにはまっている友達がいるSNSをあまりしていないよ。

Bさん：趣味とか？楽器，温泉，散歩…お茶を飲むとか。

Aさん：気軽にできる，すぐできることって大切かも！

Bさん：それなら，⑥**実現できそう**！

#### グループ2の対話の記録（一部抜粋）

下線部⑤・⑥から，社会的な見方・考え方の一つである「実現可能性」の視点で議論ができた。このグループは，課題に対する解決策について，「インターネットのない環境」や「ネットの利用制限」という情報社会で実現することが難しいアイデアや「ネット依存を解決するための楽しみ」という抽象的なアイデアを提示したが，この視点を取り入れることによって，より具体的な解決策となり，グループの考えが深まったと評価できる。その後も「実現可能性」の視点で話し合いが進んでいった。

また，前頁のグループ1の対話の記録の下線部①・②から，「個人と全体」で話し合いの視点を整理している。また，下線部③「持続可能性」の視点や下線部④「公正」の視点を基に，議論を進めようとしていることが分かる。このように，現代社会の見方・考え方を働かせることで，話し合いや考えを深めたり広めたりすることができたと考える。

これらのことから，「問いかけシート」は，合意形成過程を充実させる手段として有効であったと考える。

## (2) ワークシートや振り返りシートに見る個の生徒の変容

検証授業を通して、個の考えの変容が見られた典型的な例として、生徒Aについて、学習過程に沿ってワークシートの記述を整理したものを図4に示す。

記述内容	
興味のあるテーマ	少子高齢化
単元の学習前	(問題・課題) ・若い人が結婚する人が減ってきているから子どもが減る。 (解決策) ・①結婚する人が増えるようにマッチングアプリを無料化したりする。
グループで見付けた課題	高齢者のQOLの低下
話し合い(合意形成)の後	高齢者のQOLの低下 (解決策)：趣味に熱中する ・高齢者が自分の好きなことを見付け出し、それを続けることによって「楽しい」という感情がもてるようになり、楽しみのために生きていこうという前向きな考えを持って生活ができるから。 ・高齢者が多い場所だと持続するのが難しいことがある。→②持続可能なことをすることが必要である。  (参考になった情報や友達の意見) ・QOLを高めるために、③IoTやAIを活用できる。
単元の振り返り	(学習を終えて思ったことや感想) ・日本の少子高齢化は子どもが減って、高齢者が増えるだけだと思っていたけど、「QOL」のように少子高齢化に関する深い課題があって、根本からの解決策を見付けるべきだと思いました。  (学習を終えてもっと学びたいこと・疑問に思ったこと) ・「QOL」の解決策で、④持続がしやすいものをもっと見付けて、⑤AIが役立つという情報もあったから、どのように役立っているか調べてみたいです。

図4 生徒Aのワークシートの記述内容の変容

単元の学習前の記述である下線部①では、「マッチングアプリの無料化」とあるが、短絡的に考えており、実現可能性・持続可能性の視点を踏まえた記述ができていないと考える。その後、少子高齢化に興味をもっているグループで課題を見付ける活動を通して、高齢者のQOLの低下という課題を設定した。その後の記述である下線部②・④より、「問いかけシート」の持続可能性に着目して、グループの納得解や自分の考えを形成していったことが分かる。そして、下線部③・⑤より、「IoT」や「AI」という情報化の学習や調べたことを踏まえて考えを構築していることが分かる。

このことから、この生徒は、「問いかけシート」を活用して、合意形成過程を充実させる学習活動を通して、社会に見られる課題を解決するために、情報や他者の意見などを取捨選択し、よりよい解決策は何かと判断しながら自分の考えを深めていくことができたと考えられる。

また、他の生徒は、情報化の課題として、個人情報の流出を挙げ、個人情報に関する知識や個人情報が流出した原因について調べた上で、個人で考えた解決策は、「自分が個人情報を投稿しない。」であった。その後、合意形成過程で、解決策について、全体の視点と公正の視点から、法律による規制を充実させることも必要であると考えを深めた。話し合いの後の個人思考では、グローバル化が進んでいることから、日本だけではなく世界でも取り組む課題であると考えを広げ、自分の考えを再構築することができた。

このような生徒の姿から、「問いかけシート」は、合意形成過程を充実させる手立てとして有効であったと考える。

### (3) 生徒アンケートに見る「問いかけシート」の有効性について

事後アンケートで「話し合いの場面で『問いかけシート』をうまく活用できましたか。」という質問に対して、「はい」と答えた生徒は38人、「いいえ」と答えた生徒は14人であった。「はい」と答えた生徒の中から良かった点などについて記述したものの一部抜粋したものを次に示す。

#### (活用した場面や状況、良かった点について)

- ①話し合いがうまく進まなかった時に活用することができた。
- ②みんなが話すときに、一人一人に問いかけがしやすかった。
- ③どんな場面でどんな問いかけをすればよいか具体的に書いてあったから。
- ④自分がどういう意見を持っているかを見直していきながら理解することができました。

アンケートの生徒の記述（一部抜粋）

①～③については、話し合いで、相手に質問をする場面で「問いかけシート」を活用した良さが書かれている。話し合いを活性化するのに有効な手段の一つであったと考える。④は自分の考えを推敲する場面で「問いかけシート」を活用した良さが書かれている。社会的な見方・考え方を働かせて、対話や議論を深め、合意形成過程を充実させるための手立てとして有効であったと考える。

## VI 研究のまとめ

### 1 研究の成果

中学校社会科公民的分野の学習指導において、合意形成過程を充実させる学習活動を設定することは、社会に見られる課題の解決に向けて、論拠に基づいて、事実に判断、価値的判断を学習過程で繰り返しながら、より望ましい解決策を、選択・決定することができる力を育成する上で有効であったと考える。その際、「問いかけシート」は有効であった。

### 2 研究の課題

プレテスト・ポストテストの分析から、母集団（ $n = 49$ 人）のポストテストにおける正答率が42.9%であり、更に選択・判断する力の育成を図る必要があると考えた。また、仮説を検証するための情報として、最も不適切な（ア）を解答した生徒の割合が22.4%であった。このことから、情報を読み取る力にまだ課題のある生徒が多いことが分かった。

また、合意形成過程を充実させるための課題として、グループによる議論の深まりの差が挙げられる。この課題は、活動の観察で把握できた上に、参観した教員のアンケートの記述にも次のような意見があった。

#### (グループによる深まりの差)

- ・深まり具合は、問いかけシートの活用度合で差が大きかった。
- ・解決策が当初の内容とまとめ段階の内容が同じグループがあり、グループの中で「なぜ?」「どうして?」「具体は?」と掘り下げることができていないところもあった。

参観した教員によるアンケートの記述（一部抜粋）

情報を読み取る段階、論拠となる情報を取捨選択する段階、情報を吟味し価値判断する段階、問いかけをする段階、より望ましい解決策を意思決定する段階など、どの段階でのつまづきなのか、より細やかに分析することで、深まりの差を緩和するとともに、今後、学習活動での声掛けや手立てを検討することができると思う。

### 3 今後の展望—研究題目と所属校の研究主題とのつながり—

所属校でも深い学びを実現する授業改善をめざしていることから、課題設定や合意形成過程など授業づくりの工夫点は教科を問わずに取り入れることができる手立てと考える。研究成果として、有効であった手立てを所属校へ還元し、先生方の授業改善に

貢献したい。

また、所属校では、3学年の総合的な学習の時間に、個人で「調査・研究学習」を行っている。これは、生徒が自ら課題や仮説を立て、根拠を基に自分の考えを形成していく探究的な学習である。所属校では、中学校3年間の学習の集大成と位置づけ、取り組んでいる。本研究の単元構想や学習過程は汎用性があり、「調査・研究学習」にも転移可能なものを作成しており、有効な手立てとして取り入れることができると思う。また、自分の考えを深めるために「問いかけシート」を活用することも考えられる。さらに、探究的な学習の場面や他教科でも活用できる「問いかけシート」を作成することも可能であると思う。本研究を通して、生徒の深い学びを実現するために先生方や生徒と学び方を共有することができたと考える。そして、生徒が自分たちで合意形成過程を充実させ、議論を深められるようにしていきたいと思う。

## 【注】

- (1) 探究的な学習における「情報」についての定義の具体は、文部科学省（令和4年）：『今、求められる力を高める総合的な学習の時間の展開 未来社会を切り拓く確かな資質・能力の育成に向けた探究的な学習の充実とカリキュラム・マネジメントの実現（中学校編）』p.19を参照されたい。
- (2) 社会科において「思考力・判断力・表現力等」の「社会に見られる課題の解決に向けて選択・判断する力」に関連して、「選択・判断」とともに「構想」の表記を用いている。詳しくは、文部科学省（平成30年）：『中学校学習指導要領（平成29年告示）解説社会編』東洋館出版社pp.26-27を参照されたい。
- (3) 小原の社会的判断の類型については、小原友行（1988）：「学習の主体性」全国社会科教育学会編『社会科教育論叢』35集pp.71-73を参照されたい。
- (4) 小原が示す「思考力・判断力・表現力」を育成するための学習活動については、小原友行（2009）：『思考力・判断力・表現力をつける社会科授業デザイン』明治図書pp.10-13を参照されたい。
- (5) 「深い学び」を実現する要因についての詳細は、田村学（2018）：『深い学び』東洋館出版pp.160-167を参照されたい。
- (6) 充実した総合的な学習の時間を実現するための学習指導のポイントの詳細については、文部科学省（令和4年）：前掲書pp.19-23を参照されたい。
- (7) 原田が示す探究としての社会科の授業については、原田智仁（2018）：『中学校 新学習指導要領 社会の授業づくり』明治図書pp.28-35を参照されたい。
- (8) 桑原が示す合意形成を目指す社会科の授業過程についての詳細は、桑原敏典（2001）：「見方・考え方を育成する社会科授業構成—価値的判断力育成を目指す授業構成諸理論の検討を通して—」『岡山大学教育実践総合センター紀要』第1号pp.1-9を参照されたい。

## 【引用文献】

- 1) 中央教育審議会（平成28年）：『幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について（答申）』p.6
- 2) 文部科学省（平成30年）：『中学校学習指導要領（平成29年告示）解説社会編』東洋館出版社p.1
- 3) 文部科学省（令和4年）：『今、求められる力を高める総合的な学習の時間の展開 未来社会を切り拓く確かな資質・能力の育成に向けた探究的な学習の充実とカリキュラム・マネジメントの実現（中学校編）』p.20
- 4) 文部科学省（令和4年）：前掲書p.19
- 5) 中央教育審議会（平成28年）：前掲答申p.30
- 6) 文部科学省（平成30年）：前掲書p.26
- 7) 梅津正美（2018）：「社会問題学習の授業構成—社会的判断力の育成を目指して—」『社会科教育』2018年1月号明治図書 p.5
- 8) 文部科学省（平成30年）：前掲書p.176
- 9) 岩田一彦（1994）：『社会科授業研究の理論』明治図書 p.46
- 10) 梅津正美（2018）：前掲書p.5
- 11) 梅津正美（2018）：前掲書p.7
- 12) 中央教育審議会（平成28年）：前掲答申p.50
- 13) 文部科学省（平成30年）：前掲書p.15
- 14) 田村学（2018）：『深い学び』東洋館出版p.64

- 15) 中央教育審議会（平成28年）：前掲答申p.30
- 16) 桑原敏典（2001）：「見方・考え方を育成する社会科授業構成—価値的判断力育成を目指す授業構成諸理論の検討を通して—」『岡山大学教育実践総合センター紀要』第1号p.2
- 17) 乾正学（2015）：全国社会科教育学会編『新 社会科授業づくりハンドブック 中学校編』明治図書pp.59-60
- 18) 文部科学省（令和4年）：前掲書p.19
- 19) 文部科学省（令和4年）：前掲書p.19
- 20) 原田智仁（2018）：『中学校 新学習指導要領 社会の授業づくり』明治図書p.57
- 21) 川端裕介（2021）：『川端裕介の中学校社会科授業見方・考え方を働かせる発問スキル50』明治図書p.118
- 22) 文部科学省（平成30年）：前掲書p.7
- 23) 文部科学省（平成30年）：前掲書pp.7-8
- 24) 原田智仁（2018）：前掲書p.51
- 25) 原田智仁（2018）：前掲書p.55
- 26) 原田智仁（2018）：前掲書p.53

## 【参考文献】

- 森分孝治（1978）：『社会科教育全書7 社会科授業構成の理論と方法』明治図書
- 岩田一彦（1991）：『小学校社会科の授業設計』東京書籍
- 吉村功太郎（1996）：「合意形成能力の育成を目指す社会科授業」全国社会科教育学会編『社会科研究』第45号
- 水山光春（1997）：「合意形成を目指す中学校社会科授業—トータルミンモデルの『留保条件』を活用して—」全国社会科教育学会編『社会科研究』第47号
- 小原友行（1998）：「社会的な見方・考え方を育成する社会科授業論の革新—21世紀の学校教育における社会科の役割—」社会系教科教育学会編『社会系教科教育学研究』第10号
- 峯明秀（2011）：『社会科授業改善の方法論改革研究—資質形成の相違に応じた螺旋PDCAサイクル—』風間書房
- 棚橋健治（2018）：「選択・判断の背後にある社会的価値の対立—葛藤に向き合う授業—」『社会科教育』2018年1月号明治図書
- 草原和博・川口広美（2021）：『学びの意味を追究した中学校公民の単元デザイン』明治図書
- 桑田てるみ（2016）：『思考を深める探究学習 アクティブ・ラーニングの視点で活用する学校図書館』全国学校図書館協議会